

看護情報学 「がん医療における情報と現状について」

2008.6. 26 発表者：柏田孝美 （文責：山口）

柏田：静岡のがんセンターのサイトも参考になりますか？

中山：はい。

柏田：先生がされている、OKWaveの研究について教えてください。

中山：国立がんセンターの厚生科研で、情報を出さなければいけないという情報に関して、班の分担研究として担当している。がんセンターはわかりやすい HP を作成中。その会議では、がん情報とは何かと定義をすべきではないかということが議論された。→がん情報そのものがはっきりしていない。自分の役割としては、がん情報のニーズについて研究する担当だった。静岡がんセンターの HP において公開されている。7000 千人以上を対象に調査した。患者さんがどんなことに困っているのか、希望する情報について、調査をもとに、「Web 版がんよろず相談 Q&A」として掲載している。助言に関しては、病院のスタッフが行っており、それに対し、評価もしてもらおうようにしている。

柏田：評価をしてもらって、さらに良くするってということでしょうか？

中山：そう。どう役に立ち、そのあと、どう活用したかはこれだとわかりにくい。相談されて、その後役になったかまでは分からない。評価は、役に立った人が押すことが多い。だから、どう改善するかを評価しにくい。もうちょっとコミュニケーションをとれるような形をとったほうがいいし、サーチしてヒットしてもらえる対策が必要。サーチエンジン最適化と、サーチエンジンに最適化するような HP 対策をし、昨年より 6-7 倍アクセスがヒットした経緯がある。リンクしてもらったりすることも大事。静岡がんセンターの相談自体は、かなり網羅されている。患者さんがどんなことに困っている事を研究したければ、まず、ここに来るといい。がん情報で、何を流すかという時に、この情報を利用すればよいと提案した。がんセンターより、はるかにわかりやすい。ただ、これは自分たちで書いているので、いいのかどうかの評価が欲しいという現状がある。この情報は、困ったこと、悩み中心に始まっている。がんセンターは、疾患別などという形になっている。患者さんのニーズにそっているのは、こちら（よろず相談）の情報。そこで、ニーズを引き出すために、OKWave の情報を分析している。

やっていることは、OKWave の中で、がん治療法的意思決定について：がんに関する質問は 4112 件。そのうち、がん治療の意思決定に関する相談は 204 件（6 月 7 日現在）。多くは、「私はがんではないでしょうか」という質問。その内容を分類していくと、整理できそう。現在進行中の研究である。複数の治療法からの選択に関しては、34 件あった。

例) 食道がんの治療で、手術か化学療法か、という質問。

回答者は良回答として 20Pt ゲットしている。

この質問に対して、どういう回答だとポイントが高いか、どういう回答が、それに対して有効か、参考になることがないか、ここから拾えないかということ进行分析している。回答の傾向が見つかるかどうかは不明。ここから拾って、まとめて、静岡のところに提供してもいいし、回答の事例集でもいいし、助言を書いている立場からどう評価するかという形でもいいし、分析をしたいと考えている。代替療法も出てきている。

これは、Web 情報による混乱事例もやっている。一番多いのは、情報による混乱。Web でいろいろ見て、かえって混乱したというもの。さらに、主治医の言ってることと Web で言っていることが違うというものが最も多い内容だった。本当に欲しい情報という時に、多くのところがそれは良かれと思ってやっている情報も、本当にその人にとって欲しい情報なのか、どうしたら探し出せるかという活動をしている。

三瓶：もう、良回答も終わっていることですか？

中山：まだ。一番進んでいるのは、メタボリックシンドロームのもの。良回答の分布は、①何らかの情緒的サポートがあることと（気持ちを察する表現が入っていること）、②専門的用語があることと、③個別性（その人の立場に立って、アドバイスする）が、良回答と得られていた。メタボの2大質問は、「私はメタボか」ということと、「どうやったら予防できるか」ということ。意外な結果ではないが、こういう傾向がみられるということは、それなりに、機能している web サイトということがわかる。がんの治療などの専門性の高い情報に関しては、どのくらい信頼できる情報があるかは今後、分析したい。

経験者の持つパワーについても検討したいという意図もある。

がん情報、国立がんセンターのがん情報。以前は、がん情報サービスの中に、「がんへの看護」のコーナーがあった。リニューアルされたら看護のコーナーがなくなった。医療関係者の方への情報は、看護師向けの情報はない。そういう情報は必要なのか？NCI (National Cancer Institute) でもないようだ……。ケアの部分で、セルフケアの情報は多いが、ケアの部分に関しては、こういうところから拾えないといけないと思う。がん看護というものがあるはずなので、家族などが使えるものとして提供されるべきと思う。

片山：リニューアルされる前には、緩和ケアなどの情報が載っていたのがなくなったということですか？

中山：なくなっはいいないが、他のコーナーに組み込まれてしまった。以前は看護のコーナーとして別に設けられていた。

各病院の治療実績がしっかりとつくられていないので、国立がんセンターで拠点病院の情報を吸い上げて、情報として提供できるまでに至れていない（予算が大幅に削られた・・・）。今は、どうしようかと検討中。コールセンターの創設など？

がん情報について考え、プレゼンテーションしたものについて。

Web 2.0 では探せない人にはFAQが活用できる。コールセンターでは、回線がつかない可能性もあり、質の高いFAQを提示したほうが良いのではないかと提案した。どういう質問が多いのかという内容をデータベース化し、サービス改良に使うシステムにしていく必要があると思う。そうでないと、専門性と相互作用がうまくいかなくなる。そのために、FAQのためのテキストマイニングというものが必要。google では、どのような掛け合わせが多いかの情報を過去の検索履歴からデータベースとして持っており、がんと検索すれば、他によくある掛け合わせがリストされるようになっている。インテリジェンス FAQ となっている。

例) Google ツールバー

→皆がしているような検索にたどりつけるようになっている。「集合知」を用いて、変なところに行かずに、必要な情報にたどり着けるようにしている。

がん患者大集会と OKWave は連携している。HP 上で質問コーナーを作ったが、実際には、ほとんど質問がなかった。すでに、多くのがんの質問があったからか、宣伝が少なかったか理由は不明。サクラなどの仕込みがなかったからか・・・。未だに一件も質問はなかった。家族への手紙は 15 件あった。参考になったカウントはあるので、読んでいる人はいるらしい。

片山：心のケアだと、すでのがん治療している人は、医師などに相談することもあるのでは。

福宮：なかなか一回のやり取りで終わることもあるのでは。

中山：そうかもしれない。